

地域におけるメンタルヘルス対策シンポジウムについて

Symposium of Areal Measures against Mental Health

久保田 貴 文*
Takafumi KUBOTA

Keywords : mental health, suicide, mosaic plot, decision tree

1. はじめに

本シンポジウムでは、地域におけるメンタルヘルス対策について、特に自殺対策について現場における取り組みを取り上げた。シンポジウムの中では大学や地方自治体さらには国の取り組みについて様々な視点・論点から見つめて今後の対策につなげるような議論を展開した。関係者やメンタルヘルスに関心を持つ方はもちろんのこと、これまであまり興味を持っていなかった方々でも関心を持っていただけ、さらに問題提起できる内容へと報告からパネル討論に進めた。当日は、台風が接近しており大雨のなかではあったが、多摩市・統計数理研究所をはじめ一般の方も含めて、18名の参加があり、十分な討論がされた。

本報告では2節にて当日の報告の様子やパネル討論での議論の様子の概略を紹介する。また、3節にて著者が担当した「多摩市の自殺統計の現状について」についてその詳細を延べる。そして最後に4節で、まとめと今後の展望について述べる。

2. シンポジウムについて

2.1 報告

まず、4名の方に登壇いただいて、それぞれの立場で地域におけるメンタルヘルス対策について報告があった。タイトル・報告者は以下の順である。

1. 「メンタルヘルス予防におけるウェルビーイングの役割」

竹林 由武 (統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター)

2. 「多摩市の自殺統計の現状について」

久保田 貴文 (多摩大学 経営情報学部)

3. 「多摩市における自殺対策」

石盛 美佐子・井口 貢 (多摩市 健康福祉部福祉総務課)

* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

(原稿受理日 2014.10.31)

4. 「全国の地域自殺対策の評価検証」

中西 三春（東京都医学総合研究所 精神保健看護研究室）

最初の報告では、自殺と精神疾患との関係についての話がなされ、うつ病や双極性障害などについてのコホート研究の紹介やウェルビーイングの導入さらには行動活性化療法についても紹介された。

第二の報告では、日本における自殺者の急増や減少の話がなされ、先行研究として時空間集積性、地域特徴、要因分析、SNS の分析などが紹介され、多摩市の自殺の現状が示された（3 節に詳細を述べる）。

第三の報告では、多摩市における自殺対策として、取り組み方針がしめされ、具体的な取り組みが紹介された。取り組みとしては、若者の自殺を減らす試みとしてメンタルチェックシステム「こころの体温計」（多摩市、2014a）や自殺予防小冊子、分かち合いの会（日野市・多摩市 わかち合いの会、多摩市、2014b）などが紹介された。

最後の報告では、内閣府の自殺対策検証評価会議の委員もされている登壇者より、地域自殺対策緊急強化基金（内閣府、2014a）について紹介され、自殺対策検証評価会議（内閣府、2014b）においての評価の方法が説明され、平成 25 年度の検証・評価についてもマルチレベル回帰分析等ももちいた結果が示された。

2.2 パネル討論

パネル討論の中では、自殺よりももっと広範囲な自殺企図やうつ病のデータの利活用の可能性や、自殺の原因のなかで健康的な要因の増加についてどのような対策をうてばよいか議論がなされた。また、大学におけるメンタルヘルス対策などについて、さらには、ゲートキーパー養成講座の必要性についても検討された。

3. 多摩市の自殺の現状

多摩市の地域におけるメンタルヘルス対策について検討するために、多摩市の自殺の統計についてその概略をまとめた。さらに、対策へつなげる為にも特に原因・動機別の自殺者について性別・年別にまとめ視覚化・解析を行った。

本報告においては、内閣府が警察庁から提供を受けた自殺統計原票データに基づき集計を行っている「自殺統計に基づく自殺者」（内閣府、2014c）を用いて解析を進めた。また、原因・動機別自殺者の解析においてはモザイクプロットにより視覚化を行い、決定木分析において特徴を解析した。

3.1 多摩市の自殺の概略

多摩市における平成 25 年（2013 年）の自殺者数は 36 人（男 23 人、女 13 人）で図 1 のとおり、男が女の約 2 倍であり、日本における割合とほぼ同様である。（日本における自殺者数は、計 27,858 人、男 19,273 人、女 8,585 人である。自殺対策白書、内閣府、2014d）

また、性・年代別に見ると、30代と70代が多く（図2）、職業別に見ると、無職が3/4を締めている（図3）。

さらに、原因・動機別に見ると、一番多いのが、健康問題で、次いで経済・生活問題、家庭問題の順である（図4）。

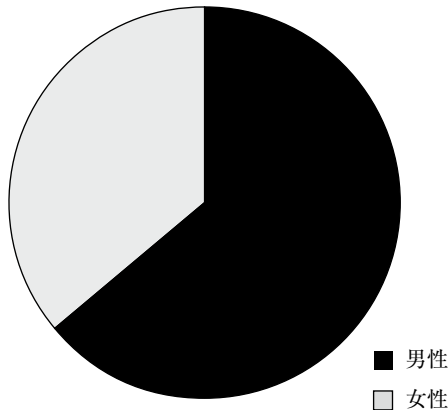


図1. 多摩市の自殺者（男女別・平成25年）

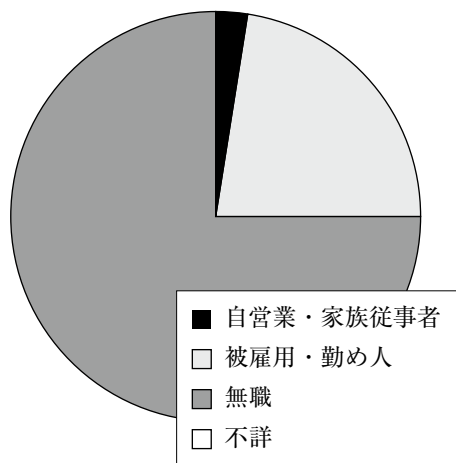


図3. 多摩市の自殺者（職業別・平成25年）

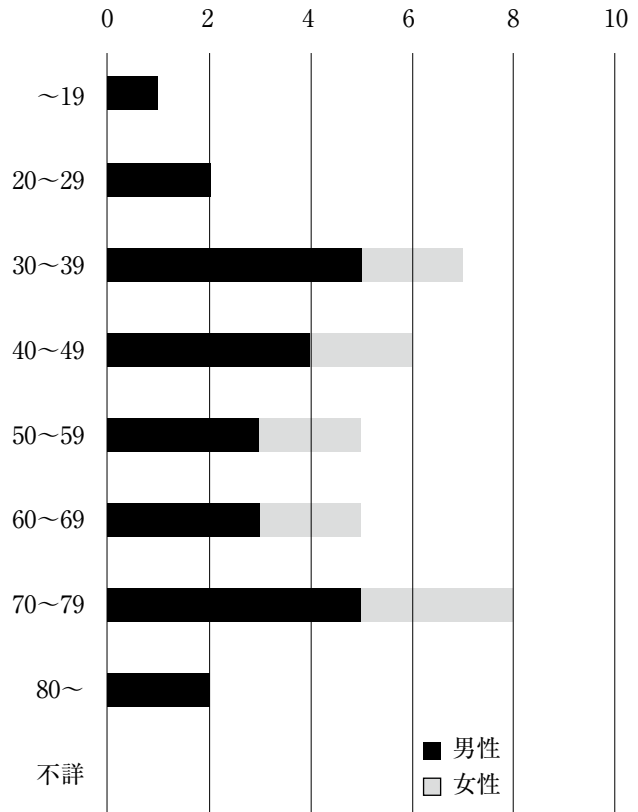


図2. 多摩市の自殺者（年代別・平成25年）

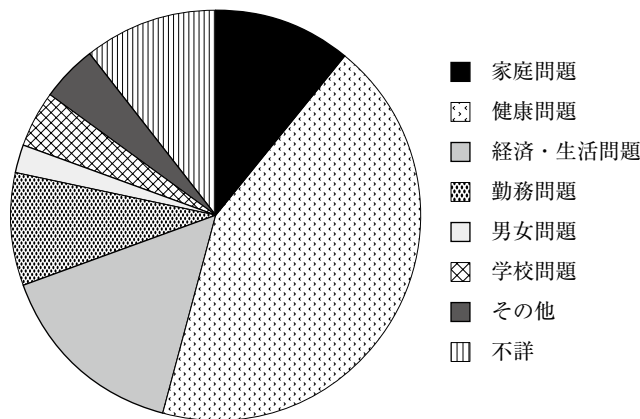


図4. 多摩市の自殺者（原因別・平成25年）

なお、原因・動機の数字については、自殺者のうち「原因・動機特定者」、すなわち、少なくとも1つの原因・動機が特定されている自殺者を計上している。この原因・動機については3つまで計上可能とされているため、総数と原因・動機別自殺者数の和は一致しない事に注意が必要である（内閣府、2014a、備考）。

3.2 原因・動機別自殺者の解析

日本全体において原因・動機別自殺者を見た場合、健康問題が最も多く、近年の自殺者の減少は経済・生活問題と関係があり（Kubota and Tsubaki, 2014）、また経済・生活問題による自殺者と生活保護受給者（被保護者）の経年的な変化の関係も考察されている（久保田・椿、2014）。

それに対して、多摩市の場合について、その傾向を確認するために、まず原因・動機別、年別、男女別のモザイクプロットを図5に示す。

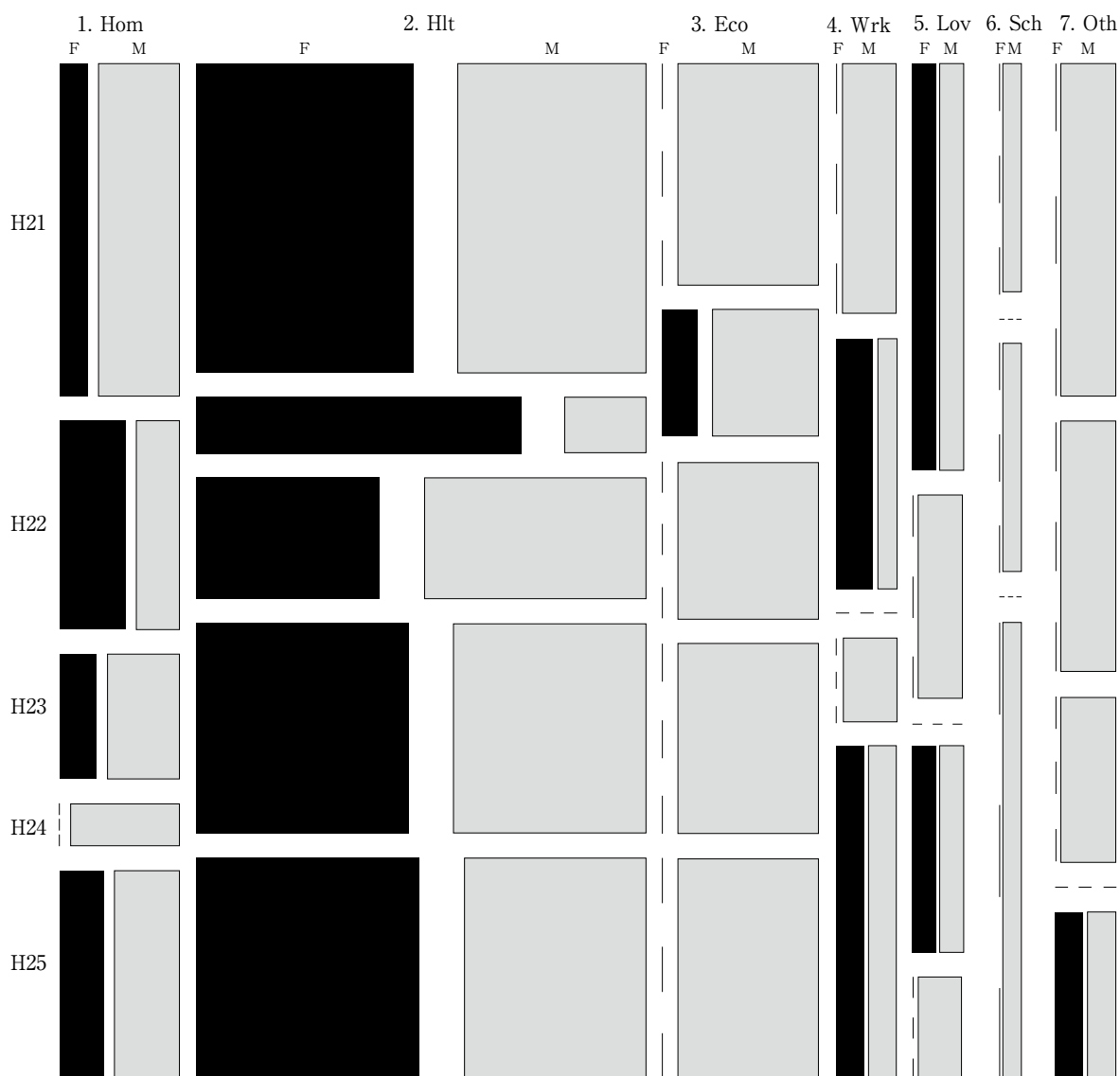


図5. 多摩市の原因・動機別自殺者のモザイクプロット（平成 25 年）

ここに、原因動機は、以下の7つ、

1. Hom：家庭問題
2. Hlt：健康問題
3. Eco：経済・生活問題
4. Wrk：勤務問題
5. Lov：男女問題
6. Sch：学校問題
7. Oth：その他の問題

であり、年はH21（平成21年（2009年））～H25までの5年間、性別はF（女性）・M（男性）を表している。モザイクプロットにおいては、第一に原因・動機（Reason）によりブロックが縦に切られ、次に年（Year）によってそれぞれのReasonのブロックが横に切られ、さらに性別（Gender）によって、それぞれのReason・Yearのブロックがまた縦に切られて、女（F）が黒色、男（M）が白色で塗り分けられており、面積の大きさが数に対応している。これより、Hltが多く、またH22だけが特殊な形だということも分かる。

次に、これらの特徴についてさらに調べるために決定木分析を行う。モデル式としては、Reason～Gender+Yearとして性別と年で理由を説明することを考える。

図6の結果のツリーより、まずGenderでわかれ、F（女）ならば、一番下のような割合となる。一方で、GenderがM（男）ならば、次にYearでわかれ、H22だけが特殊な形、すなわちHltが少ない形となることがわかる。

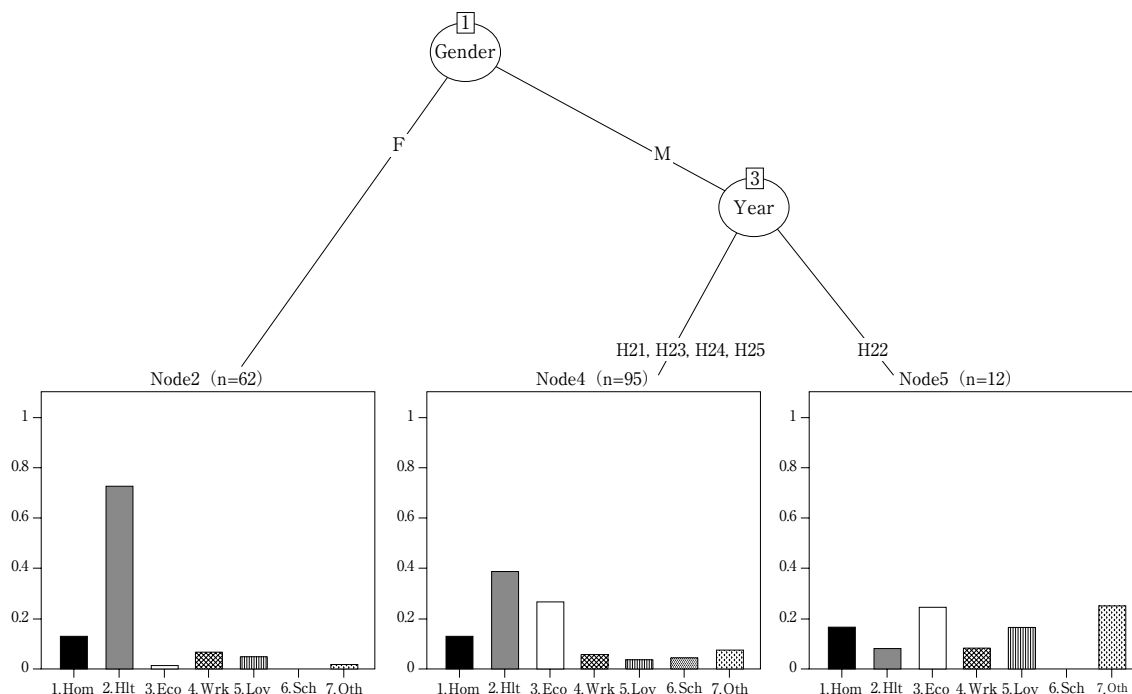


図6. 多摩市の原因・動機別自殺者の決定木分析の結果（平成25年）

4. まとめと今後の展望

本報告では「地域におけるメンタルヘルス対策シンポジウムについて」についてまとめ、特に多摩市の自殺の現状について紹介した。この現状を踏まえて、さらに対策へ結びつけるためには、因果関係をより明確に発見する必要がある。また一方で、東京都の中において多摩市が他の市区町村と比べてどのような数値となっているのかを比較する必要も出てくる。

そこで、以上より、特に東京都の市区町村ごとの自殺率およびそれと関連のあるようなデータをリンケージして、空間データとして取り扱い、原因を探すことを今後の展望としたい。

また、多摩市の自殺のデータは内閣府（2014c）より、月ごとに入手することも可能なため、その他の要因となりそうなデータで、月次で入手の可能性について検討を進めていく予定である。それにより、多変量の時系列解析を行い時間的な変化のもとでの要因を考察する予定である。

なお、本シンポジウムの開催概要については、以下の Web ページを参考にされたい。

<http://www.tama.ac.jp/guide/25th/symposium.html>

謝辞

本シンポジウムは多摩大学が主催として開催したが、多摩市および統計数理研究所リスク解析戦略研究センターに共催をいただき、また厚生労働科学研究「学際的・国際的アプローチによる自殺総合対策の新たな政策展開に関する研究」（研究代表者：本橋 豊（京都府立医科大学））にも後援をいただいた。

参考文献

- Kubota, T. and Tsubaki, H. (2014), Visualization for reason-specified suicide data in Japan, 21st International Conference on Computational Statistics (COMPSTAT2014) hosting the 5th IASC World Conference.
- 久保田 貴文・椿 広計 (2014), 地域ごとの原因・動機別自殺統計に基づく自殺予防 総合対策の為の自殺リスクに関する研究, 2014 年度統計関連学会連合大会講演論文集, pp. 103.
- 多摩市 (2014a), ためしてみませんか? こころの体温計, URL: <http://www.city.tama.lg.jp/kenkou/27/018708.html> (最終閲覧日: 2014.10.31)
- 多摩市 (2014b), 大切な人を自死で亡くされた方へ, URL: <https://www.city.tama.lg.jp/kenkou/27/019282.html>
- 内閣府 (2014a), 地域自殺対策緊急強化基金, URL: <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/area/> (最終閲覧日: 2014.10.31)
- 内閣府 (2014b), 自殺対策検証評価会議, URL: <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/kensyohyouka/index.html> (最終閲覧日: 2014.10.31)
- 内閣府 (2014c), 自殺の統計, 自殺統計に基づく自殺者, URL: <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/index.html> (最終閲覧日: 2014.10.31)
- 内閣府 (2014d), 自殺対策白書, 平成 25 年版自殺対策白書, URL: <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/whitepaper/w-2013/pdf/> (最終閲覧日: 2014.10.31)